

「日の出正宗」のラベル

資料館の近くに住むAさんが
長野商店に關係する一枚の写真
を持ってきてくれました。見ると
それは、長野商店の酒醸造所内
で昭和13年の冬に撮られた記念
写真(写真1)でした。裏にイン
クで「日醸造部蔵働人一同(5人
の出身地と氏名) 昭和13年2
月4日 厚田鈴木写真館 酒屋
記念」と書かれていました。

Aさんによると上段中央の方
が若かりしころの父親で、毎年長
野商店の酒の仕込みに行ってい
たそうです。

本業は農家だったそうですから
農閑期のアルバイトだったので
しょう。Aさんの父親の両側に
写っている二人も農家で、厚田
の方です。また前列の二人は岩
手県の方で、身なりからしてこ
ちらは酒造りのプロ(杜氏)と思
われます。

写真で一番注目したのは、前
の二人が縮めている前掛けの文
字です。前掛けには上から「銘酒
日の出 醸造元 日長野酒店」



(写真1) 提供された写真

などとプリントされてい
ます。日の出の文字の下
の縦書きで筆字風の文
字は、「正宗」という漢
字をデザイン化した、い
わゆるロゴと考えられ
ます。ですからこれが日
の出正宗の商標と考え
られ、幻のラベルに一歩
近づいたことになりました。

「日の出正宗」のラベル
そのものは未発見ですが、本物の
ラベルにはこの二文字が中央に
配置されているに違いありません。
そこでこのロゴを使用して「日の
出正宗」のラベルを復元するとこ
うなります(写真2)。

こんなラベルの付いた酒瓶や
樽を持っている方はいませんか？
もしいらつしやったら連絡してく
ださい。お願いします。

(石橋孝夫)

※広報いしかり平成19年6月号
7ページ参照



(写真2) 復元ラベル

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp



【えりす いしかりネットテレビ】
インターネットによる石狩情報の発信事業を展開。産学官の連携の中で、映像情報を活用した地域振興を目指します。11月17日で開局1周年。
<http://www.i-eris.tv/>



ナビゲーター役
えりす
いしかりネットテレビ
能村 ロックさん

「えりす」でも美術館を紹介しています。「えりす」のホームページで「石狩美術館」と検索してくださいね！



ナビゲーター役
広報いしかり編集部
門井 理恵

10月1日から広報担当となりました新米の門井です。「見やすい・分かりやすい」広報紙づくりを目指して頑張ります！

石狩美術館へ 行こう!!



ルイ・イカール作品の85%を所蔵

ルイ・イカール(1888~1950)は、フランスのアル・デコを代表する画家で、優美かつ繊細なエッチング作品を数多く残しています。小松館長が初めて購入した作品は「二人の美人」(1931年)で、そのいささつを尋ねると「実は描かれた女性が家内に似ているなあ…と思ったのがきっかけなんです」と、ちょっと照れくさそう。今では世界を代表する「イカール収集家」として、600点以上の作品を所蔵します。



▲ドーム兄弟 「蔓草丈ランプ」

◀エミール・ガレ 「アネモネ丈ランプ」



レストランは 全室個室!!

「LA CIENEGA(ラ・シエネガ)」ではなんと美術品を鑑賞しながら食事ができるのが特徴。さらに料理は石狩川に見立てた水路を流れてくるから驚きです。こればかりは実際に体験してみてください！



▲料理長の石川秀樹さん。石狩産の

食材も使ったフレンチ会席が楽しめます。



巨大な万華鏡をのぞき見るような空間

ガラス工芸にぐるりと取り囲まれた吹き抜けのアトリウムはとても幻想的で、まさに万華鏡のよう。ここでクラシックの演奏会や結婚式も行われるというから素敵です。写真中央は小松館長。

数も大きさも 迫力あるガラスたち

自ら「ガラス狂い」と笑う小松館長が収集したガラス工芸品は、約250点が展示され、「ウェブ照明」と呼ばれる独特の照明によって幻想的に演出されています。

▼10月14日(日)にアトリウムで行われた、ウィーン・インペリアル・オーケストラのメンバーによる弦楽四重奏の演奏会



石狩美術館

〒100-0001 新港中央1-710 ☎60-4111
 開10:00~18:30(入館は18:00まで)
 休水曜(祝日の場合は翌日)
 料 石狩市民 500円/一般1,000円/小学生・65歳以上800円
 URL <http://ishikari-museum.jp/>

送迎バスが市役所経由に!
市役所→美術館を送迎バスが1日4便走ります(運行時刻、運休日についてはHP参照)。車体に描かれたルイ・イカールの絵が目印!

今回、私たちが訪れた「石狩美術館」は、まさに芸術の秋にふさわしいスポットの一つです。

三友グループの代表で、同館の館長でもある小松耀氏が約40年にわたって集めた美術品を並べた私設美術館で、オープンしたのは今年6月。すでに8千人を超える人々が来館し、作品の数と迫力に「驚いた!」という声をよく耳にします。

それにしてもなぜ「石狩に美術館?」と思った方も多はず。

小松氏の本業は、産業廃棄物の処理や工業薬品を卸す会社で(本社は神奈川県)、石狩とは1978年、工業団地に産業廃棄物の処理工場を設立して以来の縁と言います。

「石狩、そして北海道に会社を育ててもらった」と言う小松氏は、その設立の地に石狩を選んだのもひとえに「この地への恩返しになれば」との思いがあったから。

こうして生まれた美術館は、他に類を見ない、美と光の芸術空間です。ぜひ皆さんも足を運んでみませんか!(能村ロック)